

県立夜間中学設置準備にかかる懇談会（第3回）会議録（概要）

1日時令和5年2月21日（火）午後1時30分から3時30分まで

2会場とりぎん文化会館第3会議室

3出席者別添名簿のとおり

4内容

(1) 協議

<非公開>

ア 校章案候補について

<公開>

イ 令和6年度教育課程（案）について【資料2】

【資料2】に沿って説明。意見、質疑等は以下のとおり。

<p>委員</p>	<p><2 教育課程の具体について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・当然と言えば当然かもしれないが、綿密にすでにここまで考えてあることに大変すばらしいというのが印象。 ・2（1）コンセプトに沿った教育課程ア「学ぶ」よろこびに関連して今も昔も読み書きそろばんがきちんとできんと社会に出たときに生きる力として、学んだことが生きていけないということだと思う。そういった意味では、国語、数学を通して、というところあたり、非常に共感できる。 ・日本語指導を国語と数学の授業を通してというところも非常に重要なところかなと思う。とてもよいアプローチではないかと思う。 ・日本語になかなか難しさを覚えることについて、コミュニケーションの部分で、（一般に中学校には）朝学活、短学活があり、まず来たときに、「おはよう」とか「元気だった？」というような、最初にコミュニケーションを取る時間というのが、すごく大事ではないかと思うし、帰るときに、「また明日な」「さよなら」というような時間が取れるかどうか。 ・JRの時間等もあり、難しいところではあるが、やはり次のイ「つながる」よろこびにも関係するが、一緒に支え合うとか、つがるといった人間関係というのはやっぱり一番大事なところだと思うので。そうしたことがもし時間的にも捻出できたりしたら、（朝学活、帰り学活が）あってもよいのではないか。 ・9ページの上の方にある社会人として自立したというところがものすごく大事だ。その中で、意外と日本はおろそかになっているのが金融教育。大人に聞いてもわからないという。社会全体のことが大人でもわかっておらず、それで困って、証券会社や金融関連の宣伝に応じて、大人がそこで学び直しをすとか。これまでのような国にお金を全部預けていたら増えていた時代ではないので、自分で貯蓄をしていかなければいけないということに、日本社会全体がはっとして、大人が急に学び直し始めている昨今ではないかと思う。 ・（金融教育を）ヨーロッパやアメリカではもう小さいころから当たり前やっている。実は今日の午前中にうちも、3年生の社会科の授業で金融教育についてゲストティーチャーを呼んでやったところで、大事だなと思ったところ。今日の資料に（金融教育について）こうして書いてあって、大事なアプローチだなと思って、共感をもって読ましてもらった。 ・学校行事の文化的行事について、地元住民にも公開するということであるが、湖東中のコラボというの也被考えられるのではないか。お隣にいながらお互い背中向けてはいけない。湖東中のためにもよいのではないかと考える。
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・委員ご指摘のとおり、朝の会、帰りの会は貴重な時間であると認識している。JRの時間はあったとしても、これだけはぜひ入れたい。生徒と直接話ができなくても、このわずかな時間が、表情の変化や態度の変化をみとる場にもなると考えている。帰り際の様子を見て、次の機会に話しかける等のコミュニケーションづくりのきっかけにもなる。
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国語と計算の重要性については全くその通りだと思う。 ・国語というものが意味するものは何なのかということについて日本語話者にとっては国語がキーになる教科になるし、一方では外国にルーツを持つ方にとっては、国語は外国語になる。国語と外国語をどう取り扱うかが結構重要になってくるのではないか。 ・少人数の学びの場で、外国語を母国語とする人がいて、隣にそれを外国語として取り扱う者がいるとき、そこに学びの瞬間があるような気がする。

	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスメイトと話すことが、一方にとっては国語の場になり、もう一方にとっては外国語の学びの場になるというような状況が生じてくる。 ・教科書をベースとしたような外国語というものが、評価として与えられるものなのか、コミュニケーションツールとして外国語をとらえるのかで意味合いがかわってくる。 ・必ずしも、英語を母国語とする方がおられると限らないし、中国語を母国語とされる方がおられるかもわからないということで、ある意味、教育課程の中にもちこむのは難しいかもしれないが、たまたまその時にその場を共有する人があったときにどういうふうな学びを仕掛けていくかということが、実は重要になってくると思うし、ものすごく可能性を秘めているようなものである。 ・出会いみたいなものから生じるような学びというものに焦点当てると、何か面白いことが起きるのかではと思う。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・より良い効果的な柔軟さを持った、こうでないとは絶対駄目っていうものではなく、夜間中学まなびの森学園ならではの学びのあり方を考えていきたいと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・一方で、日本語を母語とする困難を抱えた生徒さんと、日本語での学習に不安がある外国人がともに学ぶというこの夜間中学というのは本当に、たくさんの可能性を秘めている学習の場ではないかなと考える。 ・ある時はその日本語に困難を感じている外国にルーツを持つ学習者に対して、日本語を母語とする生徒さんは、ある意味で教える側にもなれる。 ・逆に、外国語として英語を学んでいる日本人にとってみれば英語を母語とする外国人の人と話すだけで、コミュニケーションが学びにつながるというところがあるので、とても面白い深みのある学習になるのではないかなと尊厳を生かし生かされるような大事な出会いにする工夫があるとよい。 ・例えば、家庭科の授業で外国にルーツを持つ生徒さんが自分の食文化を紹介したりするというようなことも、この学校ならではの取り組みになるのかもしれない。 ・時間割に0校時というものがあって、いわゆる補修というか、本格的な登校の前に早く登校して弱いところを勉強する時間に充ててもいいのではと思う。 ・特に日本語の学習がまだ十分ではない方にとってはこの0校時というのは、すごく大事な時間になるような気がする。 ・例えばこういう時間に、日本語学習の補習を入れると、学習に対して非常に早く対応できるような、貴重な時間になるのではないかなと思うのでぜひ活用してほしい。 ・日本語学習だけに限らず、このまなびの森学園の学習に対する、サポーター制度みたいなものを、ぜひ作っていただいて、租税教育とか消費者教育とか金融教育とか、それぞれ得意な分野を提供していただけるように、その中に日本語学習があってもよいと思う。 ・サポーター制度をぜひ作っていただいて、まなびの森学園の応援団というような形で、皆さんに夜間中学を知っていただいて、入り込んでいただいて、一緒に盛り上げて知名度を上げていく。そして、生徒さんに来ていただくような、PRをしていただく応援団のようなものが形成できるとより充実に繋がるのではないかな。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・0校時についても、いろんな活用の仕方があると考えている。個別の補修とともに例えば、4時間目と同じコマをして、交通の便の良い生徒たちには、少し早めに来て、早く帰ってもらうことも考えている。 ・サポーターについては検討させていただきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・夜間中学の生徒は自分たちで学びたいと思ってきているという形で話を進めていかないといけない。中学校なので教科書を配布して教育課程を作らないといけないが、集まってきた状態を早く見極めて、対応していかないといけない。 ・多様な生活経験を持った生徒やる気を持って集まってくるということを考えると、スチューデントティーチャーがたくさんいるのではないかな。その人たちの生きざまをいろいろ聞かせてもらえれば、お互いにまた励みになっていくのではないかな。そういう場面が設定してあればいいし、鳥取だと人材が少ないかもしれないので、オンラインで社会人を引き寄せて話を聞かしてやれる。 ・夜間なので佐治アストロパークを使って、実際にオンラインでいろんな形と夜ならではというものもつくれる。 ・ふるさと鳥取の資源を活用したものもオンラインでできるだろう。ICTをうまく使っていけたらという気持ちがある。

事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・学びたいと思っている生徒が集まってくると、必然的にコミュニケーションを取っていく。こちらが考えている以上に積極的に輪を作っていく。なので、それを見守り、不安な部分は一緒に悩むのが正しいと思う。 ・教員がサポートという考えは捨てた方がよい。一緒に悩んで一緒に解決策を導いていく。 ・中学校卒業していないというようなお年寄りも、10年とか短期間で見れば、あるかもしれないがその先を見ると少なくなっていくだろう。そうすると何が10年先、20年先で必要になってくるかっていうと、外国籍の人たちや外国にルーツを持つ人たちが鳥取で生きていくための学びと（かつて）不登校でなかなかそういう学びの場に行けなかったけど、結婚して子育てが一段落した人たちがもう1回学びたい。そういう人たちも来る。10年後にはまた今の形が変わる。柔軟性を持った形で立ち上げていかないといけないのかなというような気持ち。 ・一番は、生きた教材として生徒がいる、その生徒をうまく、みんなのティーチャーにかえてあげて話をすれば、（夜間中学の）輪は広がっていくだろう。 <p>いろいろな角度で気づきをしていかないといけないと思う。想定できない部分があるからこそ、あらゆる角度で、どんな学びをして、どんな生徒たちにどんなふうアプローチしていくのか、しっかり、ご意見等、また来年も引き続いてお聞きしながら、学校づくりをしていきたいと思っている。</p>
-----	---

(2) 報告

令和6年入学者募集案内（案）について

【資料3】に沿って説明。質疑等は特になし。

(3) 連絡

ア 第2回鳥取県立夜間中学体験授業会及び個別相談会の開催について

イ 今後の懇談会の予定について

ウ その他

【資料4】 【資料5】に沿って説明。質疑等は特になし。

(4) 閉会